

レジュメ原稿様式

「 Kさんのストレスによる他害や自傷をなくすために 」

○発表者名 祥福園 主任サポーター 本城 勇人
 祥福園 サポーター 吉村 明範
 共同研究者名 祥福園 主任サポーター 蔵本 淳也

1. 問題提起

Kさんが2020年7月に入所されてから約5年となるが、入所当時より周囲の環境や不慣れな集団生活が影響してご本人の抱えるストレスとなり、他利用者の方への他害や自身への自傷行為が増加傾向となっていた。

<実際に起きていたこと>

頭を壁に何度も打ち付ける、荒げた言動で断続的な大声を発する、食堂の机を激しく叩いて近くにあった窓ガラスを何度も蹴って割る、特定の他利用者の方の頭を自身で履いていたスリッパや自室のゴミ箱で叩くなど。

2. 目的

ご本人の抱えているストレスの要因を特定し、他利用者の方への他害や自身への自傷行為を減少させる、あるいは頻度を可能な限り少なくするにはどうすればいいかを目的とする。

3. 方法

Kさんを対象に以下の方法を実践。

① 生活する環境（居室配置と食事場所）を変更。

静かな環境で落ち着いて食事提供をし、穏やかに生活できる環境を整備。

2025/2/28

むくげ	こぶし		もも	うめ	トイレ	さざんか	もくれん	こせまり	アカシア
	Kさん								
			つばき	つつじ	練馬	浴	まくら	みずき	オリーブ
畳	食堂	キッチン			練馬				もくせい
								倉庫	

② ご本人の特性に沿ったスケジュールを作成。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	お風呂♨	バドミントン	エアロバイク	お風呂♨	エアロバイク	お風呂♨	選択
	口腔体操	口腔体操	口腔体操	口腔体操	口腔体操	口腔体操	口腔体操
午後	音楽DVD	自由	自由	音楽DVD	自由	選択	自由

祥福園C

- ③ お楽しみを増やす。
写真あり。パワーポイント参照。
- ④ ご本人の生活に沿った声掛けを実施。
パワーポイント参照。

4. 成果・課題

【成果】

- ・緩慢な動きは現在も見られるが行動の切り替えは徐々にスムーズに行えるようになった。
- ・他利用者の方の声に過剰に反応してしまうことは現在もあるが、クールダウンの時間は入所してすぐの頃より早くなった。
- ・職員や他利用者との関わりをKさん自身から笑顔で接しようとする場面が見られるようになった。

【課題】

- ・**重要事項**：支援者は過度に急かすような支援をしてはならない
＝それらはすべてストレスへ直結してしまう
- ・すべての支援者がこれらの支援を統一して行えるわけではない。
実践してきたことを記録に記載し、情報共有することで少しずつ共通した支援をできるようにしなければならない。
- ・Kさん自身にも気分の波がある。
立腹しやすい日もあるのでそういった際は可能な範囲でKさんの思いを傾聴した上で臨機応変に支援することが大切である。

【研究する上での気付き、思ったこと、感じたこと】

- ・主任サポーター 本城 勇人
今回の研究発表でご本人が一体どのような生活を望んでいるのかを支援者目線で学ぶことのできる非常に良い機会だと感じました。
日々の施設での生活の中で利用者一人一人から発せられる行動の中で一体何を支援者側に伝えたいのかを読み解き、今後それらをしっかりと支援に繋げなければならぬと思いました。
- ・サポーター 吉村 明範
それぞれの生活スタイルを尊重する重要性と、限られた時間の中で利用者一人一人にどれだけの時間をかけて接することができるかが重要だと感じました。
入所施設での生活スタイルに上手くなじめない方への生活スタイルの押し付けとならないよう「自分らしく生きる」ことの大切さを基盤とした支援を心掛けていきたいです。
 - ・主任サポーター 蔵本 淳也
研究をする上で「予定通りに進むと思わないこと」「根気と時間がかかることが多いので投げ出さず、地に足を付いた支援をしていくこと」「データとして記録を残し、共有していくこと」これらが大切であると理解することができました。
- ・その他のみのり棟サポーター
職員の思い込みや客観的に見て妥当な支援をするのではなく、本人が何を考え、何を求めているかを深く理解することが重要だと感じました。
そしてそのヒントは日常の何気ない仕草や会話の中に隠されていることもあったと感じました。